

「科学技術への社会的期待の可視化と研究開発の社会インパクト評価」

文部科学省「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』推進事業¹における公募型プログラム²の採択プロジェクト³である慶應義塾大学 SFC 研究所「科学技術への社会的期待の可視化・定量化手法の開発」プロジェクトは、研究開発ワークショップ「科学技術への社会的期待の可視化と研究開発の社会インパクト評価」を開催致します。このセッションは、第14回日本評価学会全国大会における、共通論題セッションとしても位置づけられます。

1. 目的と位置づけ

社会課題の解決に寄与する科学技術開発に、限られた資源を有効に活用し、その投資効果を最大化するには、社会課題解決に関する社会的期待として国民はどのような要素を実感しているのか、また科学技術の開発やその実装がどのように社会課題解決に貢献するのか、などを可視化・定量化した上で、コミュニケーションをしながら、仮説を立て、試行錯誤を促していく手法が求められる。

また、科学技術に関するプロジェクト立案、投資案件の審査、プロジェクトのモニタリング、事後評価などにおいては、社会にもたらす変化や受益者に対する便益を定量的に検討した上で、その社会的インパクトの仮説に基づいた判断を行うことが求められる。

本プロジェクトは、これらに貢献する手法を研究開発するものである。社会科学領域で実践的に研究されてきた、社会的期待を把握することに貢献する概念や調査手法を科学技術政策の分野に導入することで、より客観的根拠に支えられる科学技術政策の展開を可能とすることが期待される。

具体的には、科学技術基本計画が掲げる「科学技術・イノベーション政策のための科学」の構築に貢献することを念頭に①科学技術が社会にもたらす変化や受益者に対する便益を定量的に表現する「社会的投資収益率（SROI）」、②特定のイシューに関して情報を提示された場合の人々の意識変化のプロセスを可視化・定量化するプロセス「討論型世論調査（DP）」、③人々の政策ニーズや求められるアウトカムを可視化する「政策マーケティング」の3つの手法の活用モデルや、3つの手法を基盤に統合的に構築する手法を研究・開発する。

本プロジェクトにて研究開発をする手法を活用した結果として、科学技術の研究開発プロジェクトにおいて、その前提とする社会的期待や、求められる科学技術の革新や社会イノベーション、必要な政策的なリソースの動員についての仮説構築が推進され、社会的ニーズから政策立案に至る合理的な政策形成のプロセスを確立する環境が醸成される可能性がある。

¹ 文部科学省「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』推進事業 <http://crds.jst.go.jp/seisaku/index.html>

² (独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム」
<http://www.ristex.jp/stipolicy/index.html>

³ 研究開発プロジェクト「科学技術への社会的期待の可視化・定量化手法の開発」<http://www.ristex.jp/stipolicy/project/project03.html>

これらの評価体系とその運用プロセス、そして政策形成のプロセスを調査手法として確立することで、最終的には科学技術イノベーションの知見、及び関連する政策の検証・評価を新しい政策の形成プロセスに取り入れて、より効果的な政策を生み出す仕組みを構築していくことが可能になると考えられる。

本ワークショップでは、本研究のこれまでの研究成果について発表し、関連する研究領域の参加者との議論を行うことで、エビデンスに基づいた政策の実現に向けたフレームワーク構築への一助としたい。

2. 開催概要

研究開発ワークショップ「科学技術への社会的期待の可視化と研究開発の社会インパクト評価」

日時：2013年12月14日（水）15:45 - 17:45

場所：米子コンベンションセンター ビッグシップ 第4会議室

（〒683-0043 鳥取県米子市末広町 294）

参加費：有料（非会員 一般 4,000円）

事前申込：必要 ※下記「申し込みの方法」に沿ってお申し込みください。

※本ワークショップは、日本評価学会第14回全国大会の共通論題セッションとして位置づけられています。

3. プログラムとスピーカー（敬称略）

開場 15:30

（1）趣旨説明とイントロダクション

「科学技術への社会的期待の可視化と研究開発の社会インパクト評価」

玉村雅敏（慶應義塾大学 総合政策学部 准教授）

（2）研究報告1

「科学技術の予測と評価 一事前評価としての予測と社会インパクト評価」

白川展之（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任講師）

（3）研究報告2

「科学技術の社会的期待に対する統合評価モデル —スマートシティ構想に関する政策マーケティングと SROI の設計思想」

高橋武俊（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任助教）

（4）研究報告3

「SROI 法による定量評価を活用したテクノロジー・ソリューションとコミュニティ・ソリューションの最適施策形成」

伊藤 健（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任助教）

（5）質疑応答・フロアとの意見交換

4. 申し込み方法

日本評価学会ウェブサイト (<http://evaluationjp.org/activity/index14.html>) から参加申込書をダウンロードの上、学会事務局(jes.info@evaluationjp.org)まで E-mail にてお申込み下さい。

5. 本ワークショップに関する問合せ先

研究開発プロジェクト「科学技術への社会的期待の可視化・定量化手法の開発」
ワークショップ担当 (sest-info@sfc.keio.ac.jp) までメールにてお問い合わせください。

■参考：

研究開発プロジェクト「科学技術への社会的期待の可視化・定量化手法の開発」について

先進国の中でも様々な社会課題に早く直面する「社会課題先進国」である日本にとって、いかに限られた社会的資源を効果的に投入して、高い社会生産性を実現し、様々な社会課題を解決してゆくかが重要となっています。

そのためには、科学技術への社会的期待を可視化・定量化し、その情報を巡って、科学技術と社会に関わるコミュニケーションを加速させ、技術イノベーションと社会イノベーションが相乗効果を発揮することが必要です。また、科学技術に関するプロジェクト立案、投資案件の審査、プロジェクトのモニタリング、事後評価などにおいては、社会にもたらす変化や受益者に対する便益を定量的に検討した上で、その社会的インパクトの仮説に基づいた判断を行うことが求められています。

そこで、慶應 SFC 研究所では、文部科学省「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』」推進事業の採択プロジェクト「科学技術への社会的期待の可視化・定量化手法の開発」において、これまで社会科学領域で実践的に研究されてきた、社会的期待を把握することに貢献する調査手法等を科学技術政策の分野に導入することで、より客観的根拠に支えられる科学技術政策の展開を可能とすることに取り組んでおります。

本プロジェクトにおいて研究開発する手法を活用することで、科学技術の研究開発プロジェクトにおいて、その前提とする社会的期待がどのようなものなのかが明らかになり、その社会的期待に応えるためにはどのような科学技術の革新や社会イノベーションが求められ、その開発や実現にむけてどのような政策的なリソースの動員が求められているかについての仮説構築が推進されれば、国民の社会的期待から政策立案に至る合理的な政策形成のプロセスを確立する環境が醸成される可能性があると考えています。

本プロジェクトは具体的に、①政策マーケティング手法、②討論型世論調査、③SROI (Social Return on Investment : 社会的投資収益率) 分析手法という3つのアプローチから研究開発を行い、さらに、3つのアプローチを有機的に連動させることで、科学技術政策形成プロセスの基盤となる社会的期待の可視化・定量化の手法開発に取り組んでいます。

